

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100406		
法人名	医療法人 悠隆会		
事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」		
所在地	大分県宇佐市大字樋田45-1		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、今出来ている事を活かしながら出来ないところの支援を行い、職員と利用者が一緒になって食事作りから後片付けまで行っています。レクレーションの充実にも力を入れています。住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けることができるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・家庭的で笑い声が聞こえてくる明るい雰囲気のなかで、利用者一人ひとりにあったケアを考えながら支援をしており、ゆとりのあるケアが感じられる。
 ・医療・看護・介護が常に連携を取り、医療体制が確立されている。
 ・月1回の勉強会や外部研修を受講する機会もつけ職員育成を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で和気あいあいの仲にも、高齢者に対しての尊厳を大切に常に敬う気持で関わり、信頼し合い安心して地域で暮らすことができるようにと申し送り後全員で暗唱してからケアに取り組んでいる。	理念を職員と一緒に作り、玄関や施設内に掲げ毎日申し送りの後全員で唱和しケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りを開催したり、散歩やハロウィンに出かけたり、お接待にももかけて顔なじみの関係になれるよう努めている。	階下の施設と合同の秋祭りを自治委員や地域の方に声掛けし、参加協力がある。また、散歩や地域の行事に参加することで顔なじみの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「地域運営推進会議」の中で、民生委員、老人会会長から相談を受けることがあり、支援の方法についてアドバイスを行っている。地域に出かけて認知症のお話をする機会があれば、出かけたと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	勉強会や外部研修、行事等の報告の中で貴重な意見を聞くことも多々ある。又1つの課題をあげて意見をいただき、サービスの向上に努めている。会議が長引くこともある。	運営推進会議では事業所の取り組みなどの報告後、委員から意見をもらっている。民生委員や自治会長からケア方法や火事の時の対応方法などの相談があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要あれば市役所に行っている。市職員に気軽に話しかけることに抵抗あり、問題点があればアドバイスをいただいている。	運営推進会議や地域ケア会議で事業所の現状等を伝えている。また毎月、広報誌を市の窓口へ持参したときや電話で疑問点等を相談しており、その都度適切なアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室も施錠をしないことが原則、身体拘束については利用者の尊厳を守るために「身体拘束は行いません」を理念に掲げ、心身安全面の確保に取り組んでいる。	理念に「身体拘束を行わない」ことを掲げており実践している。安全帯の使用の問題では家族に事業所の方針を伝え、取り除くこと目的で話し合い、安全面の確保に取り組んでいる。。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、身体拘束・虐待防止について勉強会を開催し周知徹底を行い、新聞記事や県・市からの情報は皆で閲覧をして再確認を行い防止に努めている。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については、必要とされる利用者がいれば紹介を行い、家族に周知を図って納得をしてもらってから活用をしている。勉強会のテーマとして、職員にも理解してもらうようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退所については十分な話し合いをしてから決定、改定際は家族会で説明し納得を得た上で、署名捺印をもらい、不明な点があればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーからは貴重な意見を述べてくれることが多い。家族の皆様にも参加の呼びかけをしているところですが、参加人数が少ないのが現状です。	運営推進会議や面会時、家族会等の意見や要望を出しやすいよう常に言葉かけをしたり、会話の中やアンケートで意見、要望を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見等は上申をしている。活かしていけるところから行っている。カーテンやクローゼット交換についても検討してもらい、実行可能となる。	管理者は職員の意見や提案を月1回の勉強会の他にも聞く機会を設け、反映させている。また、現場の意見や提案を上層部に上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	離職を防ぐために一人ひとりの意見を聞いて、職場環境の見直しをしている。又やりがいある職場作りのため、慰労会や旅行も計画している。積極的に参加できるよう、研修機会をもうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のため外部研修を受講する機会をもうけたり、各自の力量によって研修を受け、学びたいことがあれば働きながら行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会がとれなかった。同法人とは親睦会を兼ねて交流を深めている。今後、同業者との交流の場を働きかけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「常に寄り添い見守っていますよ」という姿勢で接し、安心感をもっていただけるように配慮している。本人の思いを大切に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望、要望などもおききしたり、面会時間も特に定めず、電話も365日24時間OKですよと伝え、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に応じたサービスを考え、出来る事からはじめて、なじんでもらうように努め、安心して利用できるように努力している。見学も自由に来てもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をして穏やかに過ごしてもらうことを主に、何事も利用者で行い、ときに相談しながら行うことでいい関係づくりを築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時、利用者を交えて近況報告をしている。遠方も方については、電話やハガキ、写真等も同封して送付している。とても喜ばれて、必ず返事が返ってくる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や年賀状、お手紙などをもらった方については、途切れないように近況報告や写真など送付を行って関係づくりを行っている。昔から行きつけの床屋さんには、来てもらって散髪してもらっている。	馴染みの床屋さんに散髪してもらったり、手紙で近況報告や写真を送ったりと馴染みの人との関係が途切れなうよう支援している。また、定期的に来所するボランティアの人とも馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が心配したり、励ましたりしている姿がみられる。孤立しないように職員が工夫に努めている。お茶碗拭きも皆で支え合って毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急に入院になったり、退所になったりした時は不安も大きいので、相談などホームでできる範囲は支援している。他の施設に行っても情報提供は伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の難しい方でも、話す言葉の中で気づくことがたくさんできるので、職員間で話し合いにより、思いや意向を把握して、支援に活かしている。	意思疎通の難しい方は関わりの中での気づき、しぐさや言葉、また、家族からも話を聞き、職員間で話し合い思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族はもちろん近隣の方が面会に見えられた時は、できるだけ聞きとるように耳を傾けている。その方が生活してきたルーツを知ることによってサービスの向上につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者担当の職員がいるので、カンファレンスの時「気づいたこと」や「出来ること」等を報告するとともに、職員からも貴重な意見をいただいている。一人ひとりのことを全員で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきや「出来る事」「出来ないこと」を把握し、3ヶ月、6ヶ月とモニタリングを開催し、新たな発見などがあればプラン変更を行うこともある。家族にも説明し、要望等あればプランに反映している。	ケアカンファレンスを開催し実践可能な介護計画を作成しており、モニタリングをし現状に即したケアがされている。更新時には、家族も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を一人ひとり書くことで気づきがあり、そのたびにカンファレンスを開催し、職員と情報を共有し、プラン変更を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活が困難になれば、その人のニーズに合った施設や病院を探すようにしている。		

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方は定期的に見えている。地域消防団や消防署の方には年1～2回は会議や訓練で協力を頂いている。医療機関については早めの対応をして外来受診で、対応可能となるよう連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医、主治医を把握し、その時の状態に応じて受診、受診後家族との連絡はもちろん、結果報告も必ず連絡はしている。	母体の医療機関による訪問診療があり、また、専門医受診時は家族付き添いで通院し、都合がつかないときは常駐の看護師が通院支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で異変や表情、しぐさ等で日頃の状態ではないということを把握した場合は、ナースに連絡し、重篤にならないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会は定期的に行き、早めに退院できるように情報交換し話し合い、今後の支援に活かしていけるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族・介護職員・医療機関の協力が無いと成り立たない。いろんな問題を一つ一つクリアしていかないと看取りに取り組むことはできない。いつ開始してもいいよう、職員が一人ひとりが自覚し勉強会で取り組んでいく必要がある。	重度化や終末期に向けた方針を家族に説明し、書類に残している。状況に応じて事業所でできることを十分に説明しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や勉強会で学んでいる。ホームで応急手当が必要な場合は、その都度説明し、習得してもらうように努めている。救急法についても、消防署の方に依頼して、講習を受けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練実施、年2回1階と合同で訓練を行っている。消防の方に協力してもらったり、防災設備業者の立会いで訓練している。	毎月避難訓練を実施している。年2回の防災訓練を消防署指導のもと1階と合同で行っている。地域の消防団とも実践的な話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中に尊厳を守るということを掲げているが、言葉かけに問題がある職員もいるので、その都度対応方法について考え「接遇」について勉強会の課題にあげ周知徹底を図っている。	接遇向上委員会を立ち上げ、尊厳を守るケアの実践に努めている。言葉かけ等対応に気をつけ職員間で注意しあい、一人ひとりを尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を導き出すことに苦慮している。利用者の担当職員を決めていることで、職員は自分の受けもっている利用者に対して、何か引き出そうとする努力がある。できるだけ思いに沿ってケアができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないように努めている。一人ひとりの体調や表情により「したいのか」「したくないのか」など知ることができるので、本人の意向にそってケアを進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事によって浴衣を着たり、カラオケなどがあるときれいに化粧や髪飾りなどつけたりするとうれしそうに、まるで少女の笑顔になれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食べられない等把握し、食事形態も状態によって変えている。ごぼう削ぎ、味噌はかりなど、できることはしてもらい後片付け(食器拭き)も行っている。	食器拭き等できるところは職員と一緒にしている。食事は職員も同じテーブルを囲み、支援が必要な人でもできる限り自力で食べられるよう工夫しており、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、体重増減やその人の運動量もあわせて配慮している。早だしなどの工夫もしている。体操や運動後の水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがい等は声かけや誘導を行い、一緒にすることで習慣づけができた方もいる。		

事業者名:グループホーム「たんぼぼの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをしないケアを目指している。一人ひとりにあったリハビリパンツや尿取りパットをしている。夏場のリハビリパンツや尿取りはかゆみの原因になるので、布パンツで過ごせるように工夫している。	オムツをしないケアを目指しており、リハビリパンツや尿取りパット、布パンツなど一人ひとりの状態に応じた工夫をし、トイレ誘導しながら自立に向けた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはヨーグルトや牛乳を飲んでもらったり、腹部のマッサージや運動を行い、自然便がでるような食事にも工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間割や人数の関係により、好きな時に入浴することはできないが、A・B棟入浴日をずらしているので入りたい人は週4日入浴することはできる。	週2回入浴日をA、B棟ずらしており、その日の状態によりどちらでも入浴できるようにしている。週4日入浴する人もいる。別府温泉とのれんをかけ雰囲気を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や眠たいといえば休んでもらっている。起床の遅い方はゆっくり休んでもらっている。傾眠状態の方は眠ってもらっていません。本人の意志にまかせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ナース管理である。服薬確認はしている。副作用については、変化等がみられたらナースに報告をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時から日記を書いている。声かけしながら3年継続をしている。月ごとに手作りのものを作って、壁面に飾り、季節感を味わってもらえるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候のよい時に外出機会を増やしている。気候のよい日は園庭に出て、おやつなどを食べながら日光浴をしている。全員の方に外出の機会をもうけ、班を分けて出かけるようにしている。	散歩や地域の行事に出かけたり、季節の桜、藤の花、コスモスの観賞など年間の計画を立て出かけている。全員の外出機会を作るため下見をかねた少人数での外出計画を立てている。	

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを預かっている利用者については金銭管理規程を作っている。年2回残高を報告、個々に合わせて預からないとお金が紛失したと落ち着かない人もいる為、家族と相談して預かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話がかけられない人にはかけてあげている。年賀状や品物が届いたら、お礼状を職員と一緒に書いてやりとりを行う支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、ホールに温度計、湿度計を設置、気持のよい温度、明るさを維持している。ホールや玄関、居室等の壁面には季節ごとに利用者と手作りをして季節感をだしている。	玄関に季節の花が飾られ、ホールは全体が見渡せスッキリとしており広さを感じる明るく過ごしやすい空間になっている。壁面には職員と利用者で作った実った柿が飾られ、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファに座って体操をしたり、腰掛けておしゃべりをしたり、居眠りなどの光景がみられる。利用者同士が同じテーブルで食事やおやつ、手工芸等を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーの守られた空間づくりをしている。入居時になじみの物、大切な物をおいてくださいと声かけをしている。協力を得られない方もいる。自らの作品を飾ることで暖かい雰囲気になっている。	家族の写真や職員と一緒に作った作品を飾っており、一人ひとりに合った落ち着ける部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に名前を表示、顔写真を飾り、居室がわかる工夫をしている。又トイレは「便所」と表示し、浴室前にはのれんをさげて雰囲気をだしている。		